

Ⅲ 東京湾赤潮・青潮調査

東京湾の赤潮・青潮の発生状況については、公共用水域水質測定計画に基づく調査、環境研究センターによる東京湾水質調査及び水質調査船「きよすみ」の巡視等による観測から把握しており、その結果は以下のとおりである。

1 赤潮について

赤潮の判定は表1で示される「赤潮の目安」を参考に判定しており、最近の赤潮の発生状況は表2-1～表2-2のとおりである。

表1 千葉県における赤潮判定の目安

色相	オリーブ系～ブラウン系
透明度	1.5m以下
クロロフィルa	50 μ g/L以上
溶存酸素飽和度	150%以上
pH	8.5以上

表2-1 平成28年度月別赤潮発生回数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
発生回数	0	2	1	2	3	2	2	0	0	0	0	0	12
調査回数	4	3	4	4	5	4	5	4	3	4	3	4	47
発生割合(%)	0	67	25	50	60	50	40	0	0	0	0	0	26

表2-2 過去5年間の赤潮発生状況

年度	24	25	26	27	28
発生回数	9	13	15	11	12
調査回数	52	50	46	46	47
発生割合(%)	17	26	33	24	26

2 青潮について

青潮発生時には現場調査を行い、発生範囲等を確認している。

平成28年度の青潮発生状況は表3-1、過去5年間の発生状況は表3-2のとおりである。

表3-1 平成28年度青潮発生状況

発生日	発生水域（最大時）	漁業への被害等
6月14日～ 6月15日	海老川河口、幕張沖～検見川沖、千葉中央港	なし
8月29日～ 8月31日	猫実川河口（一部三番瀬漁場内）、船橋航路、 千葉中央港、	なし

表3-2 過去5年間の青潮発生状況

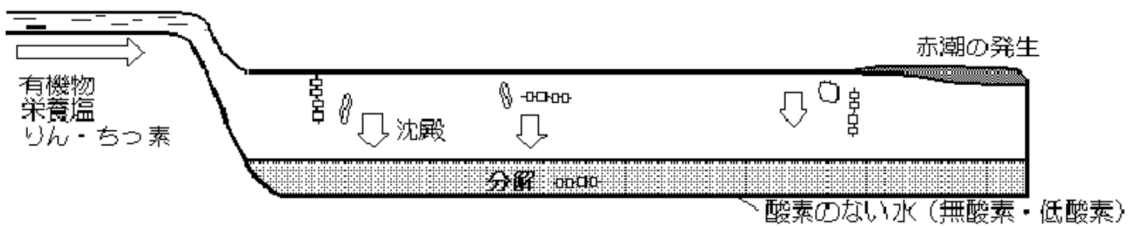
年 度	24	25	26	27	28	5年間平均
回 数	3	4	2	5	2	3.2
延べ日数	14	14	13	20	5	13.2日

「青潮」発生のおくみ

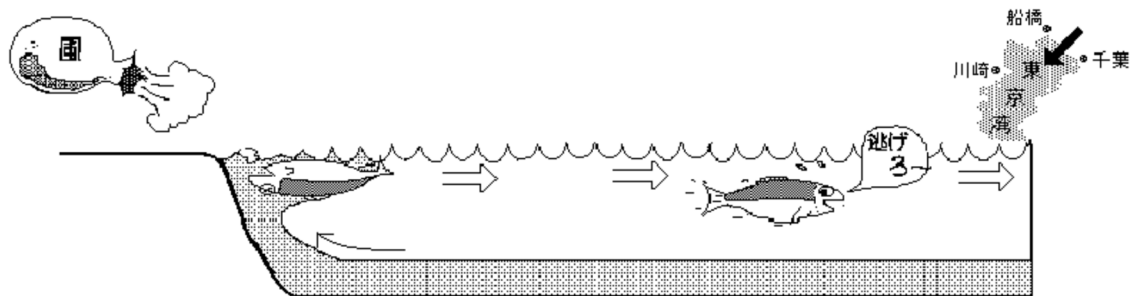
青潮とは、海面が乳青色または乳白色に変化した現象のことをいいます。青潮になると、カレイ、スズキなどの魚類が酸素を求めて水面近くに上がってきたり、ひどくなると大量に死んだりします。

青潮の起こりかた

I 家庭や工場から排出される有機物や、東京湾で生産される有機物（植物プランクトン）が底層に沈んで、そこで有機物を分解する細菌によって分解される。このときに酸素を消費し、底層水中の酸素がなくなる。水温が高くなると、海水は成層をつくり混合しにくくなるので、大気からの酸素の供給がなく、ますます酸素がなくなる。



II 北東の風が吹くと、表層の水が沖に流れ出る。（離岸流）そして、底層にあった酸素の少ない水が湧昇してくる。



III 海水中にたくさん含まれている硫酸イオンは、酸素のない水中で、硫酸還元菌により還元されて硫化物イオンができる。硫化物イオンが湧昇により、大気中の酸素と反応してイオウができる。イオウや多硫化物イオンが光を散乱させるために、海面の色が乳青色や乳白色に見える。

